

揖斐農林事務所の普及活動状況 令和3年12月27日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■いちご生産農家 家族経営協定の見直し

12月3日に揖斐川町のいちご生産農家が、揖斐川町・農業普及課の立ち合いのもと、家族経営協定の見直しを実施した。締結後、経営主と配偶者の両名から「家族経営協定にそってしっかりやっていきたい」と抱負が述べられた。揖斐川町および農業普及課からも激励の言葉を述べ、滞りなく式が終了した。

農業普及課では、家族経営協定の見直しに合わせ経営改善計画書の作成支援も行っており、両名は共同経営者として揖斐川町に認定された。



【調印の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■かき・大野町かき振興会 かきの剪定講習会の開催

12月25日に大野町かき振興会会員を対象とした、かきの剪定講習会が大野町内6会場で開催され農業普及課が活動を支援した。

各会場では、振興会技術部会員が講師となり、実際の剪定作業に関する説明が実演を交えて行われた。炭そ病等の病害が発生しており、枝病斑の除去や、弱った樹を回復させるために樹勢を考慮した適切な剪定を行うよう指導された。

生産者は普段自分が行っている作業と比較し、剪定技術について再確認した様子であった。



【剪定講習会の様子】

■いちご いちご目揃え会の開催

12月に入り、揖斐地域のいちごも出荷が本格化してきた。そのため、組合員の出荷物について目を揃え、揖斐地域として高品質ないちごを出荷することを目的として、12月10日、13日、17日に各地区で目揃え会が開催された。目揃え会は、全農や市場関係者を招いて行われ、市場からは現在の荷で問題なしと評価をいただいた上で、出荷規格の厳守、着色の進みによる過熟や傷みなどへの注意喚起があり、生産者同士でしっかり確認をしていた。

農業普及課からは冬期の草勢維持や病害虫対策等について情報提供を行った。今後も、いちごの長期安定出荷検討等に向けた支援を行う。



【市場担当者と目を揃える】

■茶 (農) 桂茶生産組合栽培暦検討会

12月1日に(農)桂茶生産組合工場において令和4年の栽培暦の検討会が開催された。

農業者と関係機関が参集し、今年の栽培を振り返り、活発な意見が交わされた。海外輸出に対応できる茶を栽培するためには、使用できる農薬が制限される上、さらに残留農薬の基準値に対しより一層気を配る必要があるため、しっかり確認が行われた。

今後なるべく農薬使用を減らしながら、安全・安心な茶生産を引き続き行っていく組合に対し、農業普及課は継続して支援していく。



【検討会の様子】

■施設園芸 施設園芸セーフティネット構築事業支援

今冬に入ってから重油の価格高騰を受け、計画的に省エネに取り組む施設園芸産地を対象として、燃油価格高騰時に補填金を支払う「施設園芸セーフティネット構築事業」の第3次公募が行われた。

揖斐郡では、池田町農業再生協議会が事業主体となり、池田町内の野菜栽培農家及び花き栽培農家の合計4戸で事業に取り組んでいる。

農業普及課では、事業実施に向けた事業の説明や実施支援を行い、事業計画の策定に向けて支援を実施した。



【打ち合わせの様子】

中山間地域を守り育てる対策

■わさび 試験ほの設置

12月2日に揖斐川町久瀬地区小津にて、新たなわさび苗の導入にむけて、試験ほを設置し、植え付け作業を行った。

従来の沢わさびに加え、畑わさびの作付けも開始している。試験ほは、畑と沢それぞれで2品種の苗を植え、さらに定植方法を変えて行い、生育状況等を調査する。

来年3月には、2,000本の苗の導入を計画しており、今後は生育状況等を確認しながら、苗生産業者と連携し、適正品種を検討する予定である。



【試験ほ場の様子】